

鬼才の画人 谷中安規展

—1930年代の夢と現実

Taninaka Yasunori Retrospective



1 《ムッテル・ショウス (ムッター・ハウス)》1933年 木版、手彩色 個人蔵

会期 2014.10.4 (土) ~ 11.24 (月・振替休日)

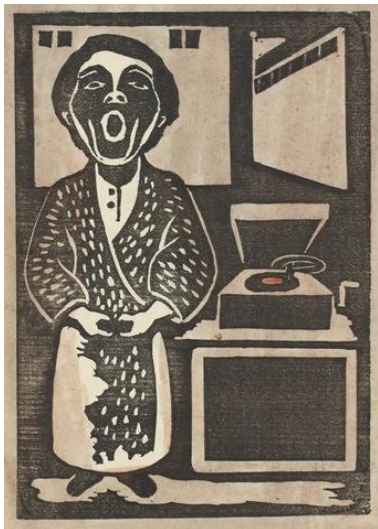
主催 町田市立国際版画美術館

東京新聞

開催趣旨

谷中安規（たになか やすのり、1897-1946）は1930年代に活躍した版画家です。この時代の東京は、関東大震災から復興を遂げモダンで華やかな顔を見せる一方で、戦時体制へと傾斜し、不安と閉塞感が強まっていました。谷中はそのような新東京を風船のように放浪し、大都市の様相に幼少期の記憶や生活の理想などを重ね合わせて、夢と現実が織りなす木版画を制作しました。ビル群や劇場、飛行船や潜水艦、外国映画のシーンやロボットなど、1930年代特有のモダンなイメージと、奈良の長谷寺で過ごした幼少期や真言宗豊山派^{ぶざんは}の中学に通っていた時代に養われた仏教観、さらに少年時代に暮らした朝鮮の記憶といった土着的なイメージを混ぜ合わせた表現は、実に多角的で独創的な内容を見せています。

10年ぶりの回顧展となる本展覧会は、万華鏡のように幻惑的な谷中安規の作品、約300点を制作年順に整理・展示し、刻々と変わる政治・社会的動向とイメージの変化や表現との関係について再考するものです。それは1930年代という時代を考える試みでもあります。谷中安規の作品は、現代社会をも逆照射してくれることでしょう。



2 《自画像》（『白と黒』30号）
1932年 木版、手彩色
町田市立国際版画美術館蔵

- 会期** 2014年10月4日（土）～11月24日（月・振替休日）
- 会場** 町田市立国際版画美術館
〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 TEL:042-726-2771
- 観覧時間** 〔平日〕10:00～17:00（入場は16:30まで）
〔土・日・祝日〕10:00～17:30（入場は17:00まで）
- 休館日** 月曜日 ただし10月13日（月・祝）、11月3日（月・祝）、
11月24日（月・振替休日・展覧会最終日）は開館、
10月14日（火）、11月4日（火）は休館

- 観覧料** 一般800（600）円／大学・高校生・65歳以上400（300）円／中学生以下は無料
- *（ ）内は20名以上の団体料金
 - *10月4日（展覧会初日）、11月3日（文化の日）は無料
 - *身体障がい者手帳または愛の手帳等をお持ちの方と付き添いの方1名は半額

主催 町田市立国際版画美術館、東京新聞

出品予定作品 木版画、水彩画、パステル画など約300点

巡回 岩手県立美術館 2015年4月11日（土）～5月17日（日）〔予定〕

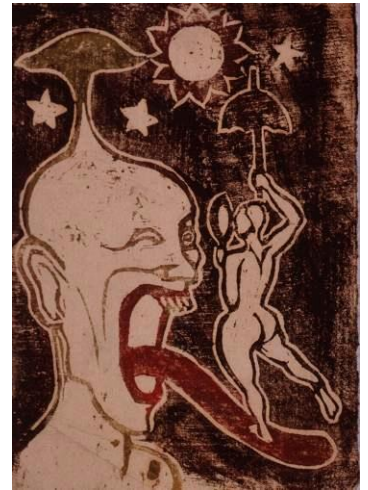
展示構成

※都合により変更になる場合があります。

I 1920年代 「腐ったはらわた」

1926年、谷中安規は描きためた素描を持って版画家永瀬義郎^{なが せ ぎしろう}を訪ねました。永瀬は、その著作が版画制作のきっかけとなった、谷中にとって重要な人物です。このとき谷中は、人間の性^{さが}をあからさまに描き出す、エロティックでグロテスクな自らの作品群を自虐的に「腐ったはらわた」と呼んだといいます。

退廃的な作品は、関東大震災直後の東京で活動した前衛美術家のグループ、「マヴォ」のメンバーが制作した、陰惨で暴力的な作品と親和性があります。谷中を含め混沌とした時代に青年期を迎えた芸術家達は、大きな転換期を迎えた1920年代という時代への感情を作品中にあらわしているといえます。



3 《妄想F》1925年頃 木版
飯田市美術館
(日夏耿之介記念館)蔵

II 1928-31年 サロメからロボットまで

1928年、谷中安規は日本創作版画協会展やデッサン社展覧会への出品、小説の挿絵や本の装幀を通し、画家・版画家として社会に飛び出していきました。1931年には、創立したての日本版画協会の会員となり、さらに国会会展や新興版画展にも出品し、キャリアを積んでいきます。

この時期には、民話や神話、伝説、仏典に想を得たと思われる物語的版画や、仏のような女性像を都市空間に登場させた奇怪な版画を制作しています。中でも聖書に登場する、洗礼者ヨハネの首を求めたサロメのエピソードを想起させる作品が多くみられます。

また、1931年にブームが頂点に達したといわれる、ロボットのイメージも版画にあらわしました。

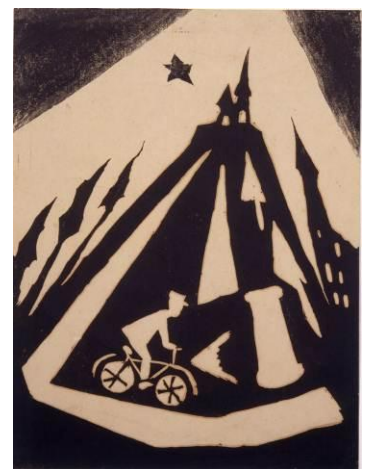


4 《女の顔》1931年頃
木版 兵庫県立美術館蔵

III 1932年 光と影の空間演出

創作活動も軌道に乗り、この年、谷中は多くの版画を制作・発表しています。主要な舞台となったのが、料治熊太^{りょうし ぐまた}編集発行の版画誌『白と黒』と『版藝術』でした。昔話や伝説に登場する獣人やお化けを奇怪かつユーモラスに表した作品、スクリーンの光で浮き上がる映画館内、少年時代を回想した作品など、さまざまな内容の木版画を寄せています。

また、表現主義の映画「カリガリ博士」に強い影響を受けた谷中は、ゆがみや明暗を誇張する手法を取り入れ、光と影の構成による空間の表出を目指します。



5 《自転車A》1932年 木版
個人蔵

Ⅳ 1933 年 土着と幻想のモダニズム

関東大震災から復興を遂げた新しい都市東京は、谷中のイメージネーションを刺激する絶好の舞台となりました。建築物が作り出す直線的空間、映画やカフェといった文化、機械文明や政治・軍事的出来事、社会をにぎわす刑事事件への関心が、モダンな形態や情景のモンタージュによって隠喩的に作品に散りばめられます。しかし谷中作品の特徴は、都市のイメージが昔話や伝説、仏典、幼少期の記憶に由来するイメージと錯綜して共存し、幻想的な作品を生み出している点にあるでしょう。モダンと土俗性が溶け合った版画は、それゆえにきわめて独創的な、新しいモダニズム作品として歴史に刻まれたといえます。1933 年はこのような作品が多く制作された、実りの多い年でした。



6 《瞑想氏》(『白と黒』41 号) 1933 年
木版 個人蔵

Ⅴ 1934 年 内なる心の世界へ

1934 年 1 月、暗がりのなかで明かりに照らされた民衆が、プロペラをつけ鳥の羽を広げた飛行体を見上げている版画《怪鳥》を発表します。上海事変勃発で戦時色がただよい、国際連盟から脱退して国際社会から孤立していった、不穏な日本社会を思わせる作品です。一方『こころの花』連作では、幼い頃の母との思い出や、いまの自分の姿とその分身と思われる蝶、可憐な花や大きく見開かれた目などを暗黒世界に浮き上がらせ、内なる心の世界へと意識を傾けています。内田 百 葡^{うちだ ひゃく ぼん}の童話『王様の背中』の挿絵で高い評価を得たのもこの年のことです。

Ⅵ 1935-9 年 「夢の実体」を探して

1934 年頃から内なる世界へと向かい始めた谷中は、昭和 10 年代(1935 年～)にはその傾向をさらに強め、天使やこども、女性が動物や鳥などと戯れる、お伽^{とぎ}噺^{ばなし}や桃源郷のような世界を描き出すようになります。それは 2・26 事件を経て日中戦争がはじまり、戦時体制が強化されていく日本の状況と無縁とはいえませんが、閉塞感が強まる現実社会に興味のあるモチーフを見つけることができず、こころの中に真理——谷中のいう「夢の実体」を探し求めているためだと考えられるからです。お伽^{とぎ}噺^{ばなし}のようなイメージは、現実社会の逆説的反映といえるでしょう。



7 《童子騎象図》1937 年頃 木版 個人蔵

Ⅶ 1940-46 年 虚空にあそぶ

アジア・太平洋戦争が始まる前年から死去する年まで、谷中はわずかの版画しか制作していません。そのうちの何点かには、彼岸^{ひがん}のイメージを読み取ることができ、求めていた表現の在りかをうかがわせます。この時期の谷中はもはや、現世と来世も区別することなく、何も妨げるもののない虚空に遊んでいるようです。それは自らの精神的な平安とともに、普遍的な真実を求めるこころの衝動であったといえるでしょう。

谷中安規（たになか やすのり、1897-1946）略年譜

- 1897 年 奈良県の初瀬（現・桜井市、真言宗豊山派総本山長谷寺のある古都）に生まれる。
- 1909 年頃 新潟の尋常小学校を終えたあと朝鮮へ渡る。その後、朝鮮の高等小学校を卒業。
- 1915 年 単身上京し、豊山中学に通う。
- 1922 年 永瀬義郎著『版画を作る人へ』を読み、版画制作を開始。
- 1924 年 長谷川巳之吉主宰「第一書房」の居候社員となり、日夏耿之介や佐藤春夫らを知る。
- 1926 年 日夏が主宰する雑誌『奢侈都』にカットを寄せる。日夏の紹介状を持って永瀬義郎を訪ね、それまでに制作したグロテスクな内容の版画や素描を見せる。一旦京城に引き上げる。
- 1928 年 日本創作版画協会展に出品、前川千帆、恩地孝四郎、平塚運一らと知り合う。
- 1932 年 前川千帆の紹介状をもって料治熊太を訪ね、『白と黒』（22号より）、『版藝術』（創刊号より）に版画を掲載し始める。
- 1933 年 佐藤春夫の紹介で内田百閒を知る。
- 1934 年 内田百閒著『王様の背中』の挿絵、装幀。
- 1936 年 佐藤春夫著『FOU』の挿絵、装幀。
- 1946 年 栄養失調で死去。

【関連催事】

◆講演会

講師：原田 光（岩手県立美術館館長）

「普通のこと普通でなく、
普通でないことが普通ということ」

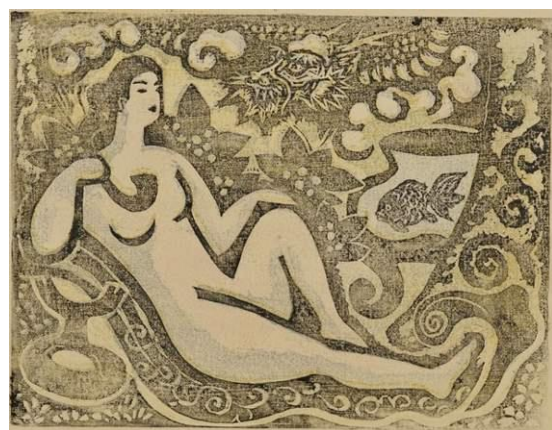
日時：10月12日（日）14:00～15:30

会場：1階講堂

※聴講無料ですが、展覧会ご観覧の方が対象です。



8《街の本 動坂》1933年 木版、手彩色 個人蔵



9《龍の夢》1939年 木版 個人蔵

◆モダンの舞 ピアノの調べ

—谷中安規に夢をはせて—

出演：坂本秀子舞踊団

解説：坂本秀子（日本女子体育大学教授）

コーディネート：伊藤里麻子（武蔵野美術大学講師）

日時：11月3日（月・祝） 1回目・13:00～ 2回目・15:00～

各回約30分（プログラムは同じ）

会場：エントランスホール

※どなたでもご鑑賞いただけますが、お席のご用意はありません。

◆ギャラリー・トーク

館長 村田哲朗 10月26日(日)
担当学芸員 10月13日(月・祝)、11月9日(日)、 11月23日(日)
いずれも14:00~14:45

※観覧券が必要です。2階企画展示室入り口付近からスタートします。

◆谷中安規の世界を気軽に楽しむ！体験コーナー

「スタンプであそぶ ～谷中安規の夢～」

版画から抜け出たイメージがスタンプに！作品から抜き出した数種類の図柄を紙や布バッグ（布バッグは有料）に押すことができます。

「もしもこの絵が動いたら？～パラパラショートフィルム～」

お気に入りのあの絵が動き出す？！谷中作品をアレンジしたパラパラ漫画をお楽しみいただきます。

「谷中ワールド満開！～夢の万華鏡～」

谷中作品のさまざまなイメージが花開く、夢の万華鏡をのぞいてみよう！

【同時開催】

〔常設展示室〕マックス・クリンガーの銅版画 2014年9月25日(木)～12月25日(木)

◆内覧会のご案内

一般公開に先立ち、下記の通り内覧会を開催いたします。
ご多用とは存じますが、ぜひご出席賜りますようご案内申し上げます。報道関係の皆様のご出席をお待ちしております。

日時：2014年10月3日(金) 15:00より

会場：町田市立国際版画美術館



10 《蝶を吐く人》『白と黒』41号) 1933年
木版 町田市立国際版画美術館蔵

【お問い合わせ】 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1

TEL: 042-726-2771 (代表) / 0860 (学芸係) Fax: 042-726-2840

担当学芸員：滝沢恭司 広報担当：松岡まり江

Email: bunsपो040@city.machida.tokyo.jp

- ・ 展覧会広報用に、本プレスリリース掲載の画像を用意しております。
ご利用いただける際は、上記問い合わせ先の広報担当までご希望の画像番号をご連絡下さい。
- ・ 読者・視聴者プレゼント用などに招待券・割引券をお考えの場合はご相談ください。